

ポピュラーアンサンブル Popular Ensemble

□ Want Some of This

Richard Tee (Stuff) 作曲

エレキベース／下川 信治 エレキギター／土井 咲也 ドラム／坂本 直哉 ピアノ／矢野 友季子

1970年代から1980年代に活躍した米国のフュージョン・バンドであるStuffが1976年に発表した作品です。A-B-A-B-Codaの構成で、短いテーマがシンプルな和音進行とともに繰り返されるA、Bに続き、ピアノソロが挿入されます。そこから和音進行は変化し、徐々に各楽器の技巧的な動きが加わりつつコーダへと楽しさと盛り上がりを見せます。Stuffらしさでもあるギターとピアノの旋律の掛け合いやドラムとベースのリズムセクションのグルーブ感、旋律の歌い方をメンバーと試行錯誤しました。本日はバンドの一体感とそれぞれの個性によって作品の魅力を伝えたいと思います。[土井 咲也]

□ 奇跡を望むなら…

E-3 作詞・作曲

ボーカル・サクソフォン／濱村 日向子 ギター／土井 咲也 ベース／下川 信治
ドラム／木村 菜都 電子オルガン／岡田 ももな

JUJUの3rdシングルとして2006年に発表されました。1stシングル「光の中へ」、続く「CRAVIN」は、ニューヨークで活動していたJUJUのルーツとも言えるクラブミュージック色の強い曲ですが売れ行きが芳しくありませんでした。次の曲が売れなければ契約終了という中で手掛けた初のバラード曲「奇跡を望むなら…」はタイトル通り奇跡を起こし、JUJUの代表作となりました。先日のJUJUのライブで最後に歌われたこの作品に心を動かされました。楽曲に誠心誠意向き合ったJUJUの音楽に近付けるよう、メンバーと練習を重ねてきました。本日は精一杯歌います。[濱村 日向子]

〈ポピュラーアンサンブル指導：千嶋 里志〉

混声合唱 Mixed Chorus

合唱／広島文化学園大学混声合唱団

指揮／藤井 雄介 ピアノ／信末 麻由子

□ 混声合唱のための組曲「旅」より

田中 清光 作詩 佐藤 真 作曲

「旅立つ日」

「行こうふたたび」

旅への憧憬、喜びやかつての甘く切ない思い出をうたった組曲「旅」。この全7曲の輪郭ともいえる第1曲「旅立つ日」と終曲「行こうふたたび」は、希望と感傷をともに抱え、人生の新たな一幕へ出立する決意を歌う。

※初出は1962年であるが、2005年の作曲者自身による改訂版での演奏。[藤井 雄介]

□ 覚和歌子の詩による混声合唱曲集「等圧線」より

覚 和歌子 作詩 信長 貴富 作曲

「リフレイン」

めぐる季節の中で何度も起こること——そのすべてが同じではなく、たった今の「ひとつきり」であることを噛みしめる。

「くりかえし 寄せる波 くりかえし 返す波」の歌詞のごとく、止まることのない時の波をあらわしたようなピアノが歌声を運んでゆく。

※中止となった2020年第45回定期演奏会予定演奏曲目。[藤井 雄介]

ピアノ&吹奏楽 Piano & Wind Orchestra

演奏／広島文化学園大学ウインドオーケストラ

指揮／白石 実

□ ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ————— E.グリーグ(1843-1907) 作曲

E.グリーグはノルウェー出身の作曲家であり、ピアニストでもあります。シューマンやメンデルソーンの影響が強いライプツィヒ音楽院で研鑽を積み、故郷ノルウェーのベルゲンに戻った後はスカンディナヴィア音楽の精神を求めべきと考えドイツ音楽の模倣ではない独自の音楽を開拓することに情熱を注ぎました。この作品はグリーグ自身が「自国の民謡の鉱脈を掘り下げて、そこに国民的な芸術を生み出そうとつとめた」と1868年に作曲しました。本日演奏する第1楽章はアレグロ・モルト・モデラート、イ短調、4分の4拍子、ソナタ形式です。美しい旋律には、当時のグリーグの幸福感やノルウェーの自然への深い愛情、力強さを感じます。雄大な自然をイメージしながら演奏したいと思います。[小柳 舞華]



ソリスト(ピアノ)／小柳 舞華

現在、広島文化学園大学学芸学部音楽学科3年生。本学において、また、1歳よりリトミック、3歳よりピアノを織田直美氏に師事。第63回西日本国際音楽コンクールジュニア部門第3位、西日本新聞社賞受賞。第9回ヨーロッパ国際ピアノコンクールin Japan 高校生の部全国大会ディプロマ賞受賞。ピティナピアノコンペティションでは第34回B級全国決勝大会ベスト賞等多数受賞。第35回中国ユース音楽コンクール高校生の部本選奨励賞他、受賞歴多数。第27回コジマ・ムジカ・コレギア定期演奏会に出演。

吹奏楽 Wind Orchestra

演奏／広島文化学園大学ウインドオーケストラ

□ カーペンターズ・フォーエバー ————— 指揮／白石 実
真島 俊夫 編曲

1970年代に数々のヒット曲を送り出したカーペンターズのメドレー。カレンの素晴らしい歌と兄のリチャードとの美しいハーモニーは世界中を魅了しましたが、惜しくも83年にカレンがなくなり、あの歌声が聞けなくなってしまいました。そのカーペンターズに思いを込めて真島俊夫氏が吹奏楽用に編曲しました。[白石 実]

□ ミス・サイゴン ————— 指揮／山澤 洋之
C.M.シェンベルク 作曲 ヨハン・デ・メイ 編曲

キム／濱村 日向子 エレン／角 阿知佳 ジョン／松永 和太 男性コーラス／後藤 海斗 城戸 敬輔 中能 丈弥 立岡 直弥
ジャコモ・プッチーニ作のイタリア・オペラ『蝶々夫人』と、その着想の元となったフランスのピエール・ロティの小説『お菊さん(Madame Chrysantheme)』をストーリーのベースに創作されたミュージカルの名作「ミス・サイゴン」を、吹奏楽作曲家として活躍するヨハン・デ・メイが編曲したメドレーである。『蝶々夫人』でのアメリカ海軍士官と没落藩士令嬢を1970年代ベトナム戦争末期のサイゴンの売春バーで働くベトナム人少女キムとアメリカ大使館軍属運転手として働くクリスに置き換え、二人の悲恋が描かれている。曲中で演奏される曲目は以下の通りである。

◆Overture - Saigon, April 1975 ◆The Movie in my Mind ◆The Morning of the Dragon ◆Please ◆I still believe
[山澤 洋之]

□ 典礼の舞 ————— 指揮／上田 啓二
デイヴィットR.ホルジンガー 作曲

「典礼の舞」は米国ミズーリ州セントラルメソジスト単科大学の創立75周年を記念して作曲されました。1985年に同大学で初演されていますが、卒業生でもある作曲者が在籍した学生時代の仲間同士の精神的絆や、音楽という素晴らしいものを創造してくれた主への賛辞が作曲者自身のプログラムノートとして記されています。静かなホルンのメロディーから始まり、変拍子のリズムを伴いながら音の空間が徐々に拡大されていき、未知の空間へ広がるような壮大なスケールの曲です。[上田 啓二]

□ 巴里の幻影 ————— 指揮／上田 啓二
真島 俊夫 作曲

「巴里の幻影」は1997年に習志野ウインド・オーケストラの第10回定期演奏会への委嘱作品として書かれました。作曲者本人からは『巴里という街は何か芸術的な創作意欲を呼び起こす不思議な雰囲気を持っている。この曲は巴里を散策していて私の心の中にわき上がってくる、たとえば波乱に満ちた歴史や過去にそこで生きていた偉大な画家や音楽家達の幻影を音楽にしてみた。私が巴里から受けた印象が皆様に伝われば幸せである。』と述べられています。サン＝ジェルマン＝デ＝プレ、リュクサンブール公園、モンマルトルの3つの場所が取り上げられています。[上田 啓二]